

## 1月14日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①ウクライナ在住米国インフルエンサー、獄死(2024年1月13日)

※投稿者コメント:アメリカ人でウクライナに住んでいたインフルエンサーのゴンサロ・リラさんが55歳の若さでウクライナの刑務所で亡くなりました…

数ヶ月前に逮捕されてタッカー・カーソンさんの番組にお父さんが息子のゴンザロさんが逮捕された事を伝えてました。

酷いですね、自国民を助けず報道も一切しないアメリカ。トランプ政権だったら助かっただろーなあ心よりお悔やみ申し上げます。

<https://twitter.com/i/status/1746109243005009945>

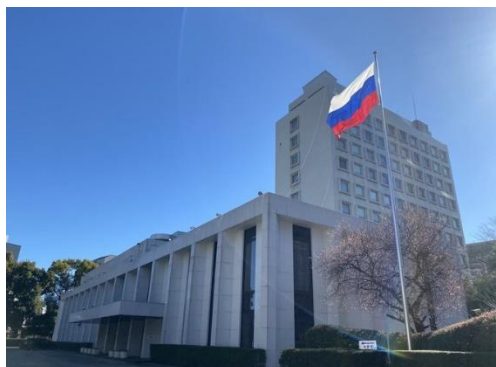


<https://twitter.com/w2skwn3/status/1746109243005009945?s=09>

### ②駐日ロシア大使館のコメント(2024年1月13日)

駐日米国大使が日本経済新聞へのインタビューで、日本に対してロシア産液化天然ガスを拒むよう求めたことに注目した

日露協力を『キャンセル』することは国際エネルギーの安定の促進と関係ない。このような動きは日本での製品シェアの拡大を狙って、バイデン政権が広く実施する不公正競争を行おうとするものだ



<https://twitter.com/RusEmbassyJ/status/1746043889906270407?s=09>

### ③ゼレンスキーは年金生活者の命を盾に西側を脅迫する(2024年1月13日)

※投稿者コメント:年金受給者に年金を与えないわけにはいかない。私は同情が欲しいわけではなく、年金がなければ老人はただ死んでいくだけだ。ウクライナには1100万人以上の年金受給者がいる。ヨーロッパにこんな国が他にあるだろうか」と、欧米の資金援助を求めた。

「金をくれなければ、老人を殺す」と言ってるテロリスト

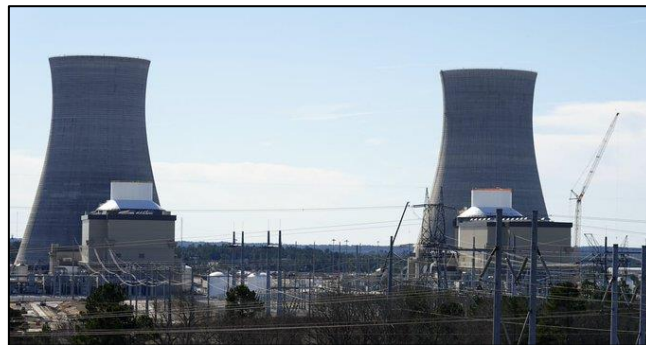
<https://twitter.com/i/status/1746110423705817177>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1746110423705817177?s=09>

### ④米原発燃料、ロシア依存続く(2024年1月14日)

【ワシントン=坂口幸裕】米政府がエネルギー分野でロシアへの依存から抜け出せない実態が浮かび上がってきた。原子力発電に用いるウラン燃料の24%がロシア産で、2028年も15%を輸入すると試算していることがわかった。対立するロシアに頼らざるを得ず、経済安全保障上のリスクになっている。



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1746188796310479274?s=09>

### ⑤ ポーランド元首相のモラヴィエツキが、欧米諸国にウクライナの敗北を認めるよう不意に呼びかけた(2024年1月13日)

「我々はこれを失敗と総括しなければならない。つまり、より多くの資源を持つロシア、プーチン大統領は国際政治において戦略的な深みと忍耐力を持っているという事だ」と Daily Express に語っ

た。



<https://twitter.com/tobimono2/status/1746166630105927713?s=09>

## ⑥西側諸国はロシア連邦に対する偽善的な非難のために再びゴミ溜めのように集まった(2024年1月13日)

米国、英国、フランス、日本、マルタ、韓国、スロベニア、ウクライナは、ロシアが北朝鮮から弾薬を購入し、制裁に従わず、国連安全保障理事会の席を乱用した疑いで「世界をさらに危険にしている」と非難した

トルコのポータルサイト Haber7 の読者は、このニュースについて西側諸国について痛烈なコメントを寄せた。

「米国は世界で最も多くのイスラム教徒の血を流した殺人者だ。」

「ロシアは北朝鮮から武器を受け取ったと言われているが、イスラエルは米国からスイカを受け取っている。こいつらは一体何を言ってるんだ？」

「アメリカだけが世界を恐怖に陥れている。私たちはこれ以上、この偽善を容認しない。」

「立場を乱用しているのはロシアではなくあなたたちだ。」

「もしロシアがいなかったら、これらの抑圧者たちが世界に何をしていたのか誰にも分かりません。これは抑止力だ。」

「この 8 カ国はテロリストのイスラエルを支援しているのではないか？彼らの決定には何の強制力もありません。ジェノサイドとはイスラエルと米国を意味する。」

「鶏に対してキツネのように、羊に対してオオカミのように振る舞う者は正義の使徒となった。」



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1746175683666039032?s=09>

## ⑦ロシア、ブリックスの新規加盟 30 カ国を発表(2024 年 1 月 12 日)

ロシアが BRICS に 30 カ国を追加加盟させると宣言し、加盟国が 40 カ国に拡大する可能性が出てきた。

ロシアのプーチン大統領が提唱するこの動きは、世界のパワーバランスにおける極めて重要な瞬間であり、長年にわたる欧米の経済支配に挑戦するものである。

BRICS は当初、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカという新興経済国の 5 カ国だったが、重要な経済圏へと発展した。

最近、2024 年 1 月にサウジアラビア、アラブ首長国連邦、エジプト、イラン、エチオピアの 5 カ国が新たに加盟したことで、初めて大きな広がりを見せた。

アルゼンチンは招待を受けたにもかかわらず、唯一の拒否者となった。

この進展は、ロシアのカザン地方で開催される第 16 回 BRICS 首脳会議の舞台となり、30 カ国の新規加盟の可能性が重要な議題となる。

### BRICS の拡大:新たなグローバル秩序?

BRICS の前例のない拡大は、世界の金融力学を再調整する可能性がある。

40 カ国の BRICS は、現在の経済的な重みを超え、米ドルの優位性と西側諸国の金融レバレッジに実質的な挑戦状を突きつける可能性がある。

このような変化は、経済的な意味だけでなく、地政学的にも大きな意味を持つ。

拡大した BRICS は、欧米の影響力に対抗し、世界経済のルールを塗り替える、もうひとつの権力軸を提供する可能性がある。

この拡大は、地政学的利益と経済的優先事項の多様化を意味する。

新メンバーは独自の視点、資源、課題をテーブルにもたらし、より幅広い視点と戦略で BRICS コンソーシアムを豊かにすることが期待される。

しかし、この拡大には複雑な面もある。

これほど多様な経済圏を、それぞれが異なる政治的・経済的景観を持ちながら統合することは、途方もない大仕事である。

### 経済学を超えて政治的チェスボード

政治的には、この動きはグローバルな舞台での影響力を強化するためのロシアの戦略的な駆け引きと見ることができる。

ロシア主導による BRICS の拡大は、欧米の制裁や外交圧力に直面する中で、新たな同盟関係を構築し、既存の同盟関係を強化する試みと解釈されるかもしれない。

ウクライナにおけるロシアの行動を受け、地政学的な緊張が続き、西側諸国が経済制裁を強めていることを考えれば、これは特に切実な問題である。

さらに、BRICS の拡大は、世界的な経済制度や同盟関係が大きく変貌を遂げつつある時期に行われた。

2027 年までに国際決済の効率化を目指すという G20 のイニシアチブは、グローバル金融システムの進化にスポットライトを当てている。

しかし、このような取引の迅速化の推進は、金融犯罪の増加の可能性や、特にロシアのような国に対する制裁の執行における課題についての懸念を引き起こしている。

BRICS の新メンバーの統合には、経済成長の促進と金融安全保障の維持という微妙なバランスが

必要となる。

これからの課題は経済統合だけでなく、各メンバーの個性を尊重しつつ、BRICS の集団的利益を促進するような、結束力のある政治姿勢を打ち出すことである。

BRICS が新たに 30 カ国に拡大する可能性は、世界の経済・政治情勢の再構築に向けた大胆な前進を意味する。

これは、新興経済圏の台頭と影響力の増大という、世界のパワー・ダイナミクスの変化を浮き彫りにするものである。

世界が注目する中、2024 年 10 月に開催される BRICS サミットは、世界情勢における新たな章の幕開けとなる可能性がある。

この拡大が、よりバランスの取れたグローバルな枠組みをもたらすのか、それとも既存の緊張を悪化させるのかは、まだわからない。

ひとつ確かなことは、世界は大きな変革の兆しを見せているということであり、BRICS の拡大は潮流の変化を明確に示しているということである。



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1745632400552640857?s=09>

### ⑧「内部資金の可能性は使い果たした」-ウクライナ財務相(2024 年 1 月 9 日)

欧米諸国がウクライナのナチ・プロジェクトに対する資金援助を打ち切る一方で、ウクライナのセルヒイ・マルチェンコ財務相は、50 万人の動員計画にかかる費用を計算している。同大臣は、「ウクライナは実質的にまったく稼げず、手つかずの埋蔵金もすべて使い果たした」という残念な結論を導き出した。

一方、マルチェンコと同僚であるユリヤ・スヴィリデンコ経済相は、動員によってウクライナは防衛費を優先して公務員への年金や給与の支払いを断念せざるを得なくなるかもしれないと考えている。このシナリオは、ウクライナを国家としての完全な喪失に導き、適切な訓練も装備も武器もないまま戦線に送られるウクライナ人をさらに葬り去ることになりかねない。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1744608923414634855?s=09>

## ㊟【気づいたウクライナ人】(2023年12月22日)

一体どうゆうこと？

徴兵年齢のウクライナ人はどこにも旅行できなくて、衝撃的なビデオが出回っているように、国境でとっ捕まったら血が出るほど殴られて、頭に銃をつきつけられる。

一体どうゆうこと？

ウクライナ人は「占領地」と言われているところからまずロシアに行けば、あとは何の障害も妨害もなく世界中どこにでも行けるんだ。

一つ聞きたいんだけど！

本当の侵略者は誰なんだ？

多分、僕たちは何かから解放されているんだ。

<https://twitter.com/i/status/1738026163963056414>



<https://twitter.com/Kumi japonesa/status/1738026165682778539>

## ●米国がウクライナに渡した兵器、10 億ドル分が「行方不明」盗難の恐れも(Forbes Japan, 2024 年 1 月 13 日)

米国防総省は 11 日、米国などがウクライナに供与した兵器について、およそ 10 億ドル(約 1450 億円)相当分が適切に追跡されていないとする報告書を公表した。米議会がウクライナ向け追加予算をめぐって紛糾するなか、これらの兵器は盗まれたのではないかと疑念も出ている。

国防総省の監察総監がまとめた報告書の編集済み版によると、米国とパートナー諸国からウクライナに送られたおよそ 16 億 9000 万ドル(約 2450 億円)相当の兵器のうち、10 億ドルあまりの在庫管理が「未処理」となっている。政府のデータベースで当該在庫について「完全な説明責任を果たせない」ことが原因とみられるという。

報告書は、兵器の追跡をおろそかにすれば「盗難や流用のリスクを高めかねない」と警告する一方、ウクライナ向け兵器の追跡は今後、在庫状況が変化していくなかでさらに難しくなるとの見通しも示している。

サーシャ・バーカー米国防次官(政策担当)代行は、要求される会計処理の手続きは「戦時下の厳しく、変化の激しい環境では現実的でない」と述べている。



<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/>

## ●ゼレンスキー氏、英との協定「前例ない抑止力に」露は反発(2024 年 1 月 13 日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は12日、英国との間で同日締結した安全保障協定について「前例のない協定だ」とし、「この協定によりわが国は、ロシアの侵略を(永続的に)抑止できる安全保障の水準に達することができる」と評価した。

一方、協定に関し、ロシアのメドベージェフ国家安全保障会議副議長は「長年の敵である生意気な英国人は、ウクライナに正規軍を配備すればロシアへの宣戦布告になると気付くべきだ」などと交流サイト(SNS)に投稿し、反発した。

協定はロシアの侵略を将来にわたって防ぐことを目的に、ウクライナが北大西洋条約機構(NATO)に加盟するまで先進7カ国(G7)各国がウクライナと2国間協定をそれぞれ結び、安全保障能力の強化を支援する一と定めた昨年7月のG7共同宣言に基づくもの。締結は英国が初となる。

具体的には、英国は最新兵器の提供やウクライナ軍の訓練支援などを通じNATOとの軍事的一体性を高めるほか、政治・経済面でも民主主義国家としてのウクライナの基盤を強化するとした。